

東都医療大学図書館通信

学生選書ツアーって何をするの? ～参加学生の方の体験記をご紹介します～

2016年9月6日(火)に開催された学生選書ツアー。今年参加できなかった学生さんから「学生選書ツアーって何をするの?」と質問を受けました。今年度の様子を下記にご紹介します。皆さんぜひ次回、ご参加ください!

～学生選書ツアー体験記～

ご寄稿くださった学生さん、ありがとうございました。



9月6日に学生選書ツアーに参加しました。私がこのツアーに参加したきっかけはA先生に声をかけていただいたことです。公共交通機関で行くと交通費が支給されるということだったので、当日は電車を使ってさいたま新都心駅へ行きました。集合時間は午前10時55分だったので、朝の弱い私には助かりました(笑)。紀伊国屋書店さいたま新都心店の入口付近に集合し、お店の方のお話をきいたあとに約1時間半ほどゆっくりと本を選ぶ時間がありました。

1人当たりの選書金額は2万円程度ととても大きな金額だったので、驚きました。普段、自分では手がだせないような少し値段の高い医療に関する本や小説をたくさん選ぶことができました。なかでも、「機能解剖パーフェクト辞典」や「全部見えるスーパービジュアル循環器疾患」などの本はリアルで臓器や身体のイラストが大きくて立体的にイメージしやすいです。文字だけでなく、図も多く重要な単語がカラーになっていてわかりやすいです。なので、授業でわからなかったところを調べたり、レポートを書く際にとても役に立ちます。また、東都医療大学は看護大学ということもあり、医療に関する本は多いですが、小説は少ないので、自分が読みたいと思った本や図書室に置きたいと思った小説を選びました。直木賞を受賞した「サラバ!」や芥川賞を受賞した「コンビニ人間」など話題の小説があり、わくわくしました。選書時間は1時間半あり、初めは長いと思いましたが、あっという間に過ぎてしまいました。

学生選書ツアーを解散した後は、自由だったので、私はそのままコクーンシティでとてもおいしいハンバーガーを食べ、買い物をしました。フライングタイガーというかわいい雑貨屋さんがあったので、ツアーに参加したらぜひ立ちよってみてください。私はこのツアーに参加して、今まで以上に本に興味を持ちました。夏休みのいい思い出にもなりますので、ぜひ参加してみてください!

11月中旬～12月中旬までに納品された図書・雑誌など

《図書》

- 『図説 国民衛生の動向 2016/2017』
- 『生活習慣病のしおり 2016・17』
- 『ポケット版 実用六法 平成29年版』
- 『みるみるナーシング 健康支援と社会保障制度 2017』

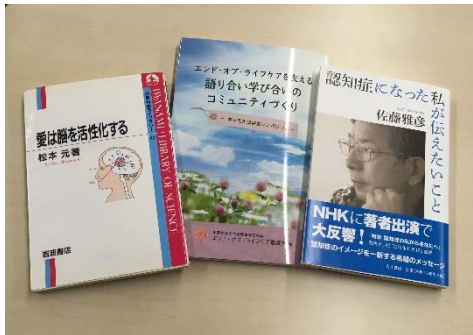
《雑誌》 ※下記OPACをご参照ください。

<http://www.lib-finder2.net/tohto/servlet/New?findtype=1>

看護・医療系図書が10%OFFで購入できます!

展示販売のお知らせ

| 展示販売 | 納品 |
|---------------------------------------|----|
| 書籍展示は、 2017年4月に再開予定です。 | |
| それまでの間、本を購入したい場合は、 廣川書店へ直接注文して下さい。 | |
| <廣川書店 連絡先> | |
| TEL:027-322-4804 | |
| Mail:takasaki@hirokawa-books.co.jp | |
| ※注文の際は、必ず、大学名、学生番号、氏名を伝えて下さい。 | |



(左)『愛は脳を活性化する』松本元著/岩波書店刊
 (中央)『エンド・オブ・ライフケアを支える語り合いのコミュニティづくり』
 千葉大学大学院看護学研究所ド・ボ・ワカチ看護学編
 (右)『認知症になった私が伝えたいこと』佐藤雅彦著/大月書店刊

「今年出会った本のうち印象に残った2冊+α」のご紹介

高齢者看護学 佐藤光栄

過去の図書館通信を開いてみたところ、今年度は高齢者看護学領域のメンバーがすでに2名掲載されていました。国際高齢者年の記念すべき年でもありませんが、重ならないように書きたいと思います。

最近出会った本は「エンドオブライフケア学」の学会誌でした。近年「終活」ということが言われるようになり、誰にでも訪れる死の準備について聞くことが多くなりました。『病気であるか否かにかかわらず人が老いて生きる過程が自然

のものであり、その過程においてその人自身が“生きること”を意識するという。さらに自分自身のありようを意識化することで、自身がどう生きたいかという“主体的な生き方、そのあり様の模索”からエンドオブライフケアは始まる』というものでした。多死の時代と言われる中、自身の死をも視野に入れ、多様な生活の仕方を受け入れ、多職種と協働しケアするそんな時代に、考えることとして必要なことと思います。

2冊目は、『認知症になった私が伝えたいこと』(大月書店刊行)。この本は若年性認知症になられた佐藤雅彦さんが書かれた本です。これまでも当事者の語りとして出された本もありましたが、今だからこそ反響が大きいのかもしいろんなと思って読みました。介護者家族の苦悩が書かれたものが多い中、実は当事者も苦しんでいるし、こうしてもらったら生きやすいと声を出されている。一つ一つの記憶が抜け毛のように抜け落ち、戻ることは決してないその現実を突きつけられた本人が、「全く何もできないのではない!ではなく、できることがある。」「私のことを本人抜きで決めないでください」と言われています。実際のところ、『家族としては「病気の人」と思わなければやっていけませんよ』というご家族もいらっしやいます。皆さんもこれから多くなる認知症、軽度認知症の方の思いに触れてみてください。そして看護に生かしてほしい。残された機能を活用してほしい。

最後に+αとして『愛は脳を活性化する』(岩波書店刊行)という松本元氏の本ですが、その中には高校一年生の時交通事象で、いわゆる植物症と言われる状況になられた方が例として書かれていました。ご家族の必死のスキンシップやケアにより植物症から甦ったのです。家族の愛が救った例でした。そのことを根拠とした解説が書かれています。

しかし、認知症には、まだそのことは当てはまりません。しかし、対象者をよく見て行動について理解を示すことで生きやすくなるのではないのでしょうか。どれも長くない本です。通学途中にも読めると思います。

ティツィアーノとヴェネツィア派



ヴェネツィアの巨匠、ティツィアーノ。あのミケランジェロも嫉妬し、後世の画家、ルーベンスやルノワールなどにも多大なる影響を与え、“画家の王者(プリンス・オブ・ペインター)”と呼ばれたヴェネツィア・ルネサンスを代表する画家です。彼の作品は、躍動感あるドラマチックな構図と輝くような色彩で描かれ、ヨーロッパ中から高い評価を得ました。80年以上にも及ぶ彼の長い生涯のなかで、ヴェネツィアの主要な聖堂や貴族たちから絶えず注文を受けたほか、ヨーロッパ諸国の君主や教皇のための絵画を多く制作したと伝えられています。

ヴェネツィア派の特徴をひとことで表すと「絵画的(ペインタリー)」です。豊かな色彩感覚と柔らかな造形を最大の魅力とし、近代の油絵画にもつながっています。また油絵画の技法として、直接壁に描くフレスコ画より、持ち運び可能なカンヴァス画が主流でした。これは海に囲まれたヴェネツィアの土地風土に關係することで、湿度が多かったためです。聖堂や邸宅などの室内装飾のほとんどは、カンヴァスに油彩で描かれています。

本展はティツィアーノの真髄に迫る日本初の大規模展となっております。イタリアの人々によく愛されてきたバラ色の女神「フローラ」も来日します。イタリア屈指の美術館が所蔵する数々の素晴らしい作品に、貴方も魅了されてみませんか。

(上・左) ジョヴァンニ・ペルリニ 《聖母子(フリッツォーニの聖母)》1470年頃、テンペラ、ヴェネツィア、コッレール美術館 © 2016, Photo Archive - Fondazione Musei Civici di Venezia / (上・右) ティツィアーノ・ヴェネツィオ 《フローラ》 1515年頃、油彩、フィレンツェ、ウフィツィ美術館 © Gabinetto Fotografico del Polo Museale Regionale della Toscana / (下・左) ティツィアーノ・ヴェネツィオ 《マダラのマリヤ》 1567年、油彩、ナポリ、カポディモンテ美術館 Museo e Real Bosco di Capodimonte per concessione del Ministero dei beni e delle attività culturali e del turismo / (下・右) パオロ・ヴェネローゼ 《聖家族と聖バルバラ、幼い洗礼者聖ヨハネ》 1562-65年、油彩、フィレンツェ、ウフィツィ美術館 © 2016, Photo Scala, Florence - courtesy of the Ministero Beni e Att. Culturali

会場：東京都美術館企画展示室(東京都台東区上野公園8-36) 会期：2017年1月21日(土)～4月2日(日)
 開室時間：9:30～17:30(金曜日は20:00まで) ※入室は開室の30分前まで 休室日：月曜日、3月21日(火)※ただし、3月20日(月・祝)、27日(月)は開室
 観覧料：一般 1,600円 / 大学生・専門学校生 1,300円 / 高校生 800円 / 65歳以上 1,000円 ※中学生以下は無料 ※身体障害者手帳・愛の手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳・被爆者健康手帳をお持ちの方とその付添いの方(1名まで)は無料 ※いずれも証明できるものをご持参ください 公式サイト：<http://titian2017.jp>

いよいよ師走です



手相芸人・島田秀平さんによると、今年申年は「赤」を身に付けると運氣が上昇する年だそうです。広島カープ優勝や大河ドラマ「真田丸」の赤備えなど今年話題となった人や事柄には、「赤」を連想させるものが多かったように思います。島田さん曰く、来年も引き続き「赤」、そして「黄色」が運氣を上昇させる色だそうです。新年に向けて新調するものがありましたら、ぜひ赤や黄色を取り入れてみてはいかがでしょうか。